

# 令和6年度 第1回岐阜県介護現場革新会議 議事要旨

令和6年7月19日(金)

10:00~11:30

岐阜県シンクタンク庁舎 大会議室

健康福祉部次長	<b>○あいさつ</b> ・開催あいさつ
事務局	<b>○会長の選任(互選により選任)</b> ・中部学院大学人間福祉学部 飯尾良英学部長 異議なし
会長	<b>○副会長の選任(会長の指名により選任)</b> ・社会福祉法人岐阜県福祉事業団 中島恭久理事兼寿楽苑長
高齢福祉課長	<b>○議題①:介護現場の生産性向上について</b> ・資料説明
構成員	・補助実績だが、介護ロボットが県内の約4%、ICTが県内の約7%となっており、思っていたより少ないという印象。理由としては、もともと補助の枠が少ないのか、それとも申請する事業者が少ないのか。
高齢福祉課長	・補助金活用事業所数は、割合でいくと非常に少なくなっているが、申請が多く、予算が足りないというわけではないため、今後導入・活用の働きかけをしていかなければならないと思っている。 ・また、介護保険指定事業所の12,361か所の中には、医療機関であることによって、みなし指定を受ける居宅療養管理指導の事業所、訪問リハビリテーションの事業所等も入っている。特にICT補助金では、補助要綱上対象外としているわけではないため、全体数が多くなっていることも理由の1つかと思われる。
構成員	・介護ロボット等について、既存のものと新たに導入したものが必ずしも上手く一致せず、活用されていないところがある。国の方で何か政策誘導的なことを考えているのか。
高齢福祉課長	・過去に導入したものを使用していく中で、新しい技術が開発されるということはあると思うが、ICT補助金については基本的には1事業所1回と制限されているため、更新する場合については、今後検討していかなければならないと思っている。 ・また、今回設置する岐阜県介護生産性向上総合相談センター(以下「相談センター」という。)で、そういったことの相談対応なども行っていきたい。
構成員	・高齢者の方の働く意思がないわけではないのに、ケアパートナーのマッチング数が少ない。補助制度や事前の教育制度があるのに、マッチングがうまくいっていないと思われるがどうか。
高齢福祉課長	・高齢者の方については、働きたいという方もいれば、社会貢献をしたいと思われる方もいる。県では、ケアパートナーの育成を進めると共に、たとえばボランティア等高齢者の方の生きがいづくりの促進支援もやっている。
構成員	・マッチングしないのは、本人の意向と現場と合わないからなのか、介護に対して興味がないからなのか。
高齢福祉課 長寿社会推進係長	・まずは勉強のために講座を受講する方もおり、なかなかすぐに働こうというところまで結びついていないところもある。  ・岐阜県介護現場の課題に即した対応方針(案)(令和6年度~令和8年度) 特段意見なし
事務局	<b>○議題②:相談センター事業実施計画の概要</b> ・資料説明
会長	・(公財)介護労働安定センター岐阜支部に業務委託した経緯を説明してほしい。
高齢福祉課長	・今年度予算化して事業を実施するに際し、プロポーザルで公募を行った。その中で、応募・企画の提出があった事業者を審査し選定した。

構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の状況で、質問があるのか、相談センターで何に取り組むのかが分からない。研修会・展示会について、もっと早めに実施した方が、いろんな質問がしやすいのではないかな。</li> <li>・昨年度の介護ロボット・ICTの補助金で機器等を導入したが、交付決定が遅く職員も慌ただしく準備したというのが実情。ただ効率は間違いなく上がっている。そのため、導入や補助をしている事業所の実態を早く把握した方がよい。その上で、いろんな相談がでてくるのではないかな。</li> </ul>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模事業所が多いため、ICTを導入しようとしても、「紙」の方が早かったり、資金的に困難であったりする場合がある。</li> <li>・弊社でも見学を受入れているが、介護ロボット・ICT機器を实际見てもらうというのは魅力的な取組みで非常によいと思う。</li> <li>・介護ロボットに関しては、在宅型だとほとんどない。移乗介助の介護ロボットを使用したことがあるが、装着に時間がかかったり、振り向いた時に廊下の壁を傷つけてしまったりというケースがあった。そのため、在宅で使用できるものを発掘していただけるとありがたい。</li> <li>・生産性向上となると人材のこともなると思うが、在宅の訪問介護は初任者研修を受講してからしかできず、また受講できる学校が非常に少なくなっており、ハードルが非常に高くなっている。人数を増やさないとなかなか生産性向上には繋がらず、質を上げることもできない。そこも踏まえて少し大きくなるが県独自の仕組みを作っていくとよいのではないかな。</li> </ul>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろず支援拠点開設してから11年目であり、相談センターの何倍もの予算、人員体制で取り組んでいるが、昨年度のサポート事業者数は、割合でいくと県内事業者の3%にも満たない。そのため、相談センターを設置したからといって、いきなり相談があるかというそうではない。どれだけ間口を広げられるかが大事になると思う。</li> <li>・日本は国民が一定の知識レベルがあるために、現場任せで、独自のやり方で問題解決をするというようなやり方が定着しており、アメリカと比較すると日本の全産業の生産性は60%程度しかないと言われている。そのため、生産性向上、介護ロボット等の導入については、非常によい取組みであり、医療福祉分野の生産性向上は本当に必要な状況にあると思う。</li> <li>・研修会は、経営者、運営責任者に当たる事務局長クラスの出席を必須とする形での実施を検討したらどうか。トップダウンで、この取組みへの理解を浸透させていくことは非常に重要なこと。トップの認識がないまま取組みを行うと、中間マネジメント層の精神的負担が大きく、これまでもメンタル疾患になったというケースの相談が寄せられている。</li> <li>・職員のモチベーションというのは4つの事象に分解することができ、どのモチベーションが悪いのかということを中心に把握する必要がある。そして、それに対応していくためのセミナーや研修を行う必要があるのではないかな。研修会の講師は、モチベーションバージョン3.0というものをきちんと理解し、かつその考え方に基づいて、現場の生産性向上の実績のある方がよい。</li> </ul>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット・ICT導入を進めていきたいが、大規模法人と小規模法人の設備投資では雲泥の差がある。補助金があっても事業者負担があるため、費用対効果を考えると、介護ロボット・ICTに使用するよりも、「人」に費用をかけていきたいと思っている小規模法人は多い。</li> <li>・小規模事業所は淘汰されてしまい、現在大変厳しい状態にある。その点を理解した上で、相談センターや生産性向上について考えていけないのではないかな。</li> </ul>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅のケアマネジャーは、会社や法人の垣根を越えてチームを組んで取り組んでいる。ケアプランデータ連携システムを活用することで将来的には効率化が図られると思っているが、現状としては加入率が低く使用できていない状態である。事業所間同士での連携ができるツールという意味で、何か別のものがあるとありがたい。</li> <li>・ケアプランデータ連携システムは利用料がかかるため、小規模事業所にとっては負担が大きい。事業所の規模による格差ができてしまっているのではないかな。</li> </ul>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県の有効求人倍率は、全国と比較しても非常に高く、過去から見ても非常に高い地域と言える。</li> <li>・介護については特に高くなっており、有資格者や経験者については、優先的に介護の仕事を紹介しているが、有効求人倍率は下がっていったいない。そのため、まだ職種が決まっていない方についても、「介護はどうか」というような形で働きかけを行う取組みを現在行っている。</li> <li>・介護ロボット・ICT機器の展示会に、求職者が参加することは可能か。介護未経験者、興味のない方にとって介護のイメージは昔のままで固まってしまうと思う。そのため、介護ロボット・ICT機器を見てもらい、昔に比べて改善してきていることを伝えられるとよいのではないかな。また、展示会に参加できない方に対しては、これだけ改善できているということを周知できるような短編動画を作成したらどうか。</li> </ul>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村社協の中でも、家族が施設入所を希望しており、介護件数が減少していること、人材確保が困難なこと等を理由に訪問介護を廃止しようとしているところが出てきている。</li> <li>・各利用者の記録は膨大であり、業務の大半を占めてしまったり、時間外勤務に繋がったりしており、負担になっているという話を聞く。そのため、ICTの活用というのはある程度有効であり、人材確保にも繋がるのではないかな。</li> <li>・離職理由としてよく聞くのは、給与が低いということ。また大変だからというよりは、思ったよりやりがいを感じられないというようなバランスの中で辞められる方も多い。同じ介護分野で転々としている方もおり、人間関係というよりは条件面もあるのではないかな。</li> <li>・相談窓口については、導入済みの介護ロボット等とのアンマッチングが生じているという話があったが、補助金を交付したところ等に「上手くいっていますか？」というような形で話を聞くことを最初の取っ掛かりにしてもよいかもしれない。</li> </ul>

副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私が介護業界に入った頃の記録は、全て手書きで、業務が終わった後に、自分の記憶をたどりながら記入し、帰るといった感じだった。現在では、スマートフォンで音声入力ができるようになり、かなり進化し、便利になっている。</li> <li>・新型コロナウイルスの関係で、密の回避や会話の自粛をしている間に、コミュニケーションが無くなってしまった。また、若い世代は休憩中にスマートフォンを使用しており、声を掛けづらい。人間関係には、コミュニケーションが大事だと思うため、コミュニケーションをとっていかねばならないと思っている。</li> <li>・ICTとなると、Wi-Fi環境が整っていないと上手く使えないと思うが、鉄筋コンクリートの頑丈な建物は、Wi-Fi環境を整備しにくいという話を聞く。大規模法人であれば何とかできると思うが、小規模法人だと大変なのではないか。</li> </ul>
構成員 (受託者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正直、今は手探りで事業を進めているところであるが、いただいた意見を参考にして取り組んでいきたい。</li> </ul>
高齢福祉課長	<p><b>○その他：協働化・大規模化等による職場環境改善事業について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料説明</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は10割補助か。</li> </ul>
高齢福祉課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助率は4分の3になる。組み合わせることで実施することにより5分の4になる。</li> </ul>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模法人とあるが、何をもちて定義されているのか。</li> <li>・先ほどデータ連携についての話もあったが、いろんなことをやってもよいのか。また、合同研修や事務処理の集約化ということも記載されているが、アウトソーシングするというイメージなのか。</li> </ul>
高齢福祉課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業については、国の予算を活用する事業のため、条件等も国が定めることになっている。小規模法人としては、1法人あたり1施設、または1事業所のみを運営するような法人などで事業主体となる県が認めるものとなっている。</li> <li>・事業内容の対象経費については、人材の一括募集や合同研修等に必要経費となっており、それ以上の細目というのは具体的に示されておらず、それぞれの取組みの中でということになってくるかと思う。</li> </ul>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に、構成員からの要望や感じたこととお話する。</li> <li>・1つ目は情報収集。今、現場がどういう状態になっているのか、現場の状態をよく見て、情報収集をし、その上で、相談センターの役割が何なのかを検討していただきたい。</li> <li>・2つ目は、かなり危機感が必要なのではないかということ。現場の様子としては、既に継続できるかどうかという瀬戸際のところもあり、そういったところに寄り添っていく必要があるのではないか。</li> <li>・3つ目は、小規模事業所や在宅事業所等、比較的成本がかけにくいところ、情報が入りにくいところについてもしっかり視野に入れていただきたい。</li> <li>・4つ目に、研修。もう少し早めに研修をやった方がいいのではないかという意見もあった。また、本研修の対象が誰なのかということ。生産性向上にはトップの意識が大事のため、むしろトップセミナーをやった方がいいのではないかという意見もあった。また、離職の原因に人間関係や職員のモチベーションの問題があったため、職員のモチベーションを上げる方策について研修の中身に取り入れるべきではないかという意見もあった。</li> <li>・5つ目に、特に在宅関係では、事業所間で連携するということが効率化につながるため、事業所間の連携が取れる仕組みについて検討してほしいという意見もあった。</li> <li>・できればこういった意見を基調にしてこれからの計画を充実していただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な意見をいただいた。相談センターは、今回初めて開設するセンターだが、できる限り皆様の意見に添えるような形で検討していきたい。</li> </ul>
高齢福祉課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な意見をいただいた。8月から相談センターを設置するが、本日いただいた意見を踏まえて、受託者とともに進めていきたい。</li> </ul>